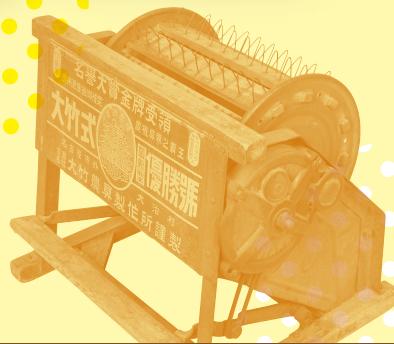


第37回企画展

# 稲作と 発明品 愛荘の

何をする  
道具かな?



令和4年

6月8日 水

→ 7月18日 月 祝

10時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月・火曜日（祝日は開館）

入館料：一般300円（250円） 小・中学生150円（100円）  
※（ ）内は20名以上の団体料金

無料入館日：令和4年7月16日（土）～18日（月・祝）

後援：NHK大津放送局 **BBCびわ湖放送** 朝日新聞大津総局  
京都新聞 産経新聞社 滋賀報知新聞社  
中日新聞社 每日新聞大津支局 読売新聞大津支局

特別協力：マルタ工業株式会社

## 愛荘町立歴史文化博物館

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地 TEL0749（37）4500

ご観覧にあたり、新型コロナウイルス感染予防・拡散防止に伴う皆様のご理解とご協力をお願いします。

●発熱・咳込み等の症状がある方は観覧をお控えください。 ●マスクの持参・着用をお願いします。 ●手洗い・手指のアルコール消毒にご協力ください。



## 第37回企画展 愛荘の稲作と発明品

愛荘町は鈴鹿山系の豊かな清水と自然に恵まれた地域で、古代から現代まで農業が盛んに営まれています。今でも昔ながらの田園風景が広がる愛荘町は、土地面積の約30%が耕地として利用されています。

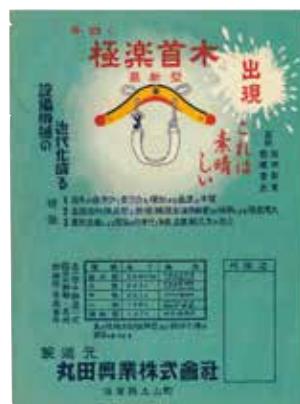
現在ではトラクタやコンバインなどの機械で農作業を行いますが、かつての農業は手作業で行われ、今とは比べ物にならないほど重労働でした。このため人々は様々な工夫を施した農具を開発し、生産効率を向上させてきました。その様子が分かる資料が愛荘町には数多く伝えられています。

本展覧会では明治期に記された農家の日誌を展示し、今とは異なる昔の農作業を紹介。また様々な農具とともに、明治期に作られた「目加田唐箕」や、愛荘町にゆかりある人物が開発した「坂東式大鋤」などを展示し、農器具に見える地域の特色や農業の負担を軽減するための工夫を紹介します。他にも、農作業の様子を描いた「四季耕作図屏風」を展示し、農作業の変化を分かりやすく解説いたします。

(上下) 四季耕作図屏風（部分）／当館蔵



▲牛日く極楽首木／当館蔵



▲牛日く極楽首木 代理店広告  
／マルタ工業株式会社蔵



## 愛荘町立歴史文化博物館 (金剛輪寺参道隣)

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地

TEL.0749(37)4500 FAX.0749(37)4520

<http://www.town.aisho.shiga.jp/hakubutsukan/>

【アクセス】  
【電車】JR稻枝駅、近江鉄道愛知川駅・豊郷駅から予約型乗合タクシー「愛のりタクシーあいしょう」  
金剛輪寺停留所下車（詳細は愛荘町ホームページを参照）

※「愛のりタクシーあいしょう」の予約先：近江タクシー㈱ 彦根営業所 TEL0749-22-1111

【自動車】名神「湖東三山スマートIC」より1分

